

第 32 回日本展示学会 公開フォーラム
移動展示の新展開～古くて新しい方法論～

2013 年 6 月 15 日（土）に、兵庫県の三田市にある兵庫県立人と自然の博物館にて『学びと出会いを届ける巡回展の試み「回遊展：クジラとサンゴの物語」』というテーマで発表する機会をいただきました。学会の研究フォーラムでしたが、一般の方々の参加も OK でしたので、当日は約 100 人の方が集まって来て下さいました。

最初に兵庫県立人と自然の博物館の三橋弘宗先生より趣旨説明があり、その後、話題提供として、下記の発表者の方々から移動展示についての新しい取り組みが紹介されました。

1. 京大博物館のアウトリーチプログラム（大野照文氏・中川千草氏／京都大学総合研究博物館）
2. ベアトランクを用いた教育実践～日本クマネットワークの事例など～
（植木玲一氏／北海道札幌啓成高等学校・NPO 日本クマネットワーク）
3. 虫と共に街を楽しむ、伊丹市中心市街地での取り組み（坂本昇／伊丹市昆虫館）
4. 琵琶湖博物館の移動博物館事業とその展開（山川千代美／滋賀県立琵琶湖博物館）
5. ひととはく地域展開とゆめはくの導入（山崎義人／兵庫県立人と自然の博物館）
6. 移動・遊動するミュージアムーモバイルミュージアム（洪 恒夫／東京大学総合研究博物館）
7. 学びと出会いを届ける巡回展の試み「回遊展：クジラとサンゴの物語」（清水麻記・江藤信一／NPO ミュージアム研究会）

京大の大野先生からは、ハンズオンの生物ぬいぐるみ（三葉虫など）の紹介があり、「学びの伝達に上流・下流があってはならない」というメッセージが印象に残りました。そうした言葉を聞くと、私たちのような小さな NPO がやってきた巡回展・国際博物館の日新聞や福岡で展開しているカフェ・なんしよーとの活動もとても意義があるんだとエネルギーをいただけます。

日本クマネットワークの取り組みでは実物のクマの皮を被ったりできる貸出トランクの紹介がありました。北海道をはじめ全国でツキノワグマが大量出没していて、人身事故 142 件、クマ捕殺 4,340 頭（2006 年全国）にもなるそうです。そうした背景をかんがみて、人員 6 人ほどから結成している日本クマネットワークさんは、人とクマの共存の目的のため、実物が沢山詰められた魅力的なヒグマトランクの開発を行っていました。クマのウンチやツメなどは迫力がありました。また、ティーチャーズガイドなども作成して同梱していました。クマネットワークさんの規模は私達 NPO ととてもよく似ており、これまた元気を頂きました。

伊丹市昆虫館の「鳴く虫と郷町」という取り組みは、街のいたるところ（商店街や市街地・公園）に、虫をいれた虫籠を置いてもらい展示するという取り組みでした。2012 年には、

100 店舗で虫が展示されたそうです。虫が交流の担い手になり、虫がお客さんとお店同士、通りがかりの人をつなぐコミュニケーションツールになったという素敵な事業でした。

琵琶湖博物館の事例は、移動博物館事業の中でも珍しい「琵琶湖博物館に来てもらうための PR 目的の巡回展」でした。高島屋やイオンモールなどで多く展示されており、私たちが目指した巡回展と同様、待っているだけでなく、博物館が行けないところに出かけていく手法でした。

人と自然の博物館の「ゆめはく」は、展示するモノが入れ替えできる巡回展バスでした。トラックのデザインなども公募されていました。中身が替えられる巡回展は、応用が効きそうです。

東京大学総合博物館の洪先生の発表は、小学校の空き教室を教室だからと言ってデザインに妥協せず、シースルーの暖簾や本格的な映像も駆使し、スクールモバイルミュージアムとして学校に一定期間展示する取り組みでした。日常の学校空間にミュージアムがやってくる意外性と驚きが子どもたちの好奇心をかきたて、既存の教育や教材で成しえない学習効果を生み出す可能性をもっている点がとても興味深かったです。

どの発表も、斬新なアイデアや工夫で巡回展の効果を高めていた取り組みでした。どの発表にも通じることは、博物館が動く「巡回展」で、新たな世界観をもたらそうという目的で活動されているように感じました。NPO ミュージアム研究会からは、回遊展「クジラとサンゴの物語」の開発経緯や展示内容、展示手法について紹介しました。今では年に 2 回ほどの展示になっていますが、息の長い巡回展であることに高い評価をいただきました。後半はパネルディスカッションでしたが、限られた時間の中、吹田市立博物館の五月女賢司さんがコーディネートしてくださり、北村彰さん（日展）、長谷川辰也さん（トータルメディア開発研究所）、朴先生（建国大学校建築専門大学院）からコメントを頂きました。全国で展開されている巡回展の取り組みが集合した、とても貴重な学会でした。館を持たない NPO としても、博物館や大学の取り組みと同じように参加させてもらったことに感謝するとともに、博物館での学びが市民に開かれているという認識を新たにしました。これからも、機会をいただければ、私たちの NPO の活動を知っていただく報告や発表は積極的に取り組んでいきたいです。展示した茶箱や蚊帳は、子どもたちにとっても人気で、博物館のお掃除の方やスタッフの方にも好評でした。設営は、日展の北村さんを中心に会場の方に大変お世話になりました。



蚊帳はあつという間に子どもたちでいっぱいになります。



会場のなかでも、たくさんスペースを使用させていただきました。



サンゴニットも展示しました。



国際博物館の日新聞も配布。



お茶箱展示の完成度を高く評価していただきました。





京大博物館のハンズオン展示。全て触れて面白いです。



日本クマネットワークさんのベアトランク！迫力満点です。



琵琶湖博物館の巡回展キット 双六が楽しそうでした！



太地くじらの博物館の鯨箱 学校の教科書にも対応していました！